



平成22年9月期 第2四半期決算短信

平成22年5月10日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 エスケーエレクトロニクス
 コード番号 6677 URL <http://www.sk-el.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当
 四半期報告書提出予定日 平成22年5月14日
 配当支払開始予定日 —

(氏名) 野上 良忠
 (氏名) 藤原 英博

TEL 075-441-2333

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年9月期第2四半期の連結業績(平成21年10月1日～平成22年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第2四半期	10,615	84.8	259	—	200	—	315	—
21年9月期第2四半期	5,745	—	△1,574	—	△1,695	—	△1,793	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年9月期第2四半期	2,784.20	—
21年9月期第2四半期	△15,816.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年9月期第2四半期	27,947	10,778	33.3	82,152.22
21年9月期	32,226	10,315	27.5	78,226.39

(参考) 自己資本 22年9月期第2四半期 9,313百万円 21年9月期 8,868百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年9月期	—	0.00	—	—	—
22年9月期 (予想)	—	—	—	800.00	800.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年9月期の連結業績予想(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,300	14.0	350	—	250	—	260	—	2,293.34

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

詳細につきましては、本日別途公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年9月期第2四半期 113,684株 21年9月期 113,684株

② 期末自己株式数 22年9月期第2四半期 312株 21年9月期 312株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年9月期第2四半期 113,372株 21年9月期第2四半期 113,398株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点での入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による緊急経済対策等により景況感に持ち直しの兆しが見えるものの、自立的な回復といえるような状況ではなく、雇用情勢の一層の悪化やデフレのリスクが高まるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

液晶パネル業界におきましては、中国での液晶パネル製造ラインの投資計画が相次いで発表されるなど、パネルメーカー各社は稼働率、業績ともに回復傾向となり、再び成長ステージへと向かいました。加えて、LEDバックライトを使用した液晶テレビの販売拡大や3Dテレビの登場、マイクロソフトによるWindows 7の発売等により、ほぼ全てのアプリケーションでパネルの需給が逼迫した状況になりました。

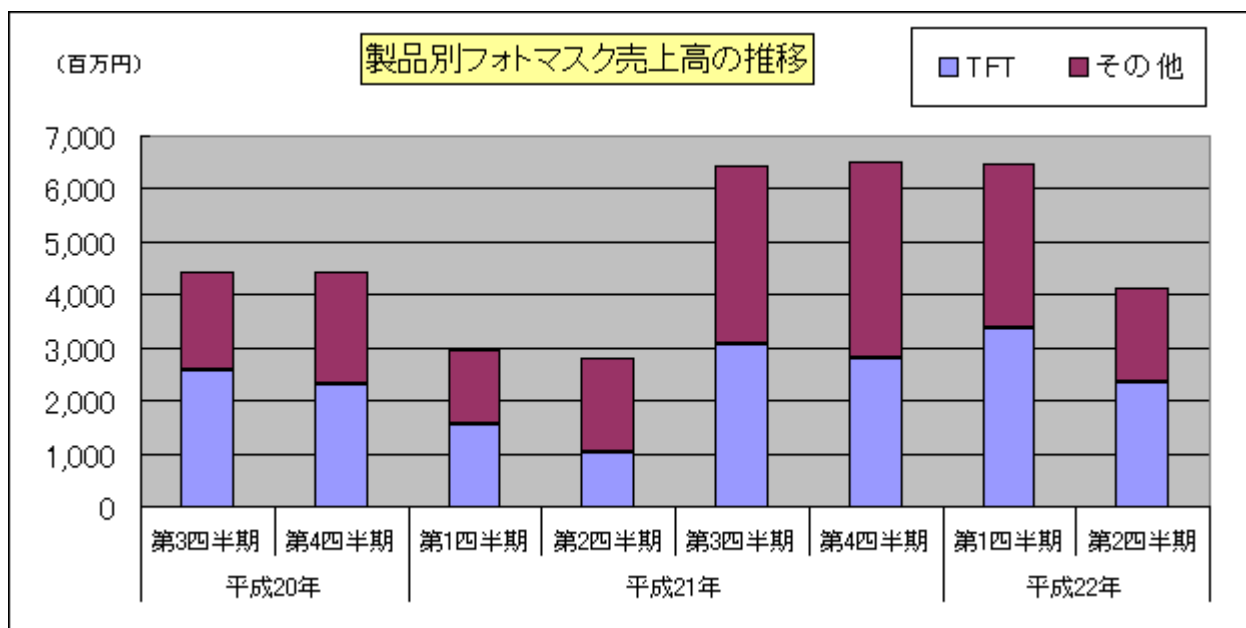
このような状況の中、当社グループにおきましては、第1四半期においてシャープ堺工場が順調に立ち上がったことを受け、第10世代用フォトマスクの需要は堅調に推移いたしました。第8世代以下の既存のフォトマスク事業においてもパネルメーカーにおいて延期されていた新規ラインの稼働が再開されるなど大型フォトマスクの需要は総じて堅調に推移いたしました。

しかしながら、第2四半期に入り、第10世代用フォトマスクにおいては立ち上がり需要が一巡したことをうけ、その需要は大幅に減少し、第8世代以下の既存のフォトマスク事業においても、パネルメーカー各社が生産フル稼働状態を継続したことから、通常、稼働率が落ちる時期に需要が高まる開発用ならびに新設ライン用のフォトマスクの需要が当初想定より減少いたしました。

また、国内、海外共に同業他社との価格競争は継続しており、厳しい状況が継続する中、当社グループでは引き続きグループ全体での製品力の更なる向上及びコスト低減活動を継続した結果、当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高106億15百万円(前年同期比84.8%増)、営業利益2億59百万円(前年同期は15億74百万円の損失)、経常利益は2億円(前年同期は16億95百万円の損失)、四半期純利益は3億15百万円(前年同期は17億93百万円の損失)となり、前年同期と比べ増収増益となりました。

製品別には、TFT用フォトマスクの売上高が、滋賀工場の次世代フォトマスクが第2四半期において需要が大幅に減少したものの、第1四半期において堅調に推移したことにより、57億21百万円となり、前年同期と比べ売上高は大幅に増加しました。

(参考)



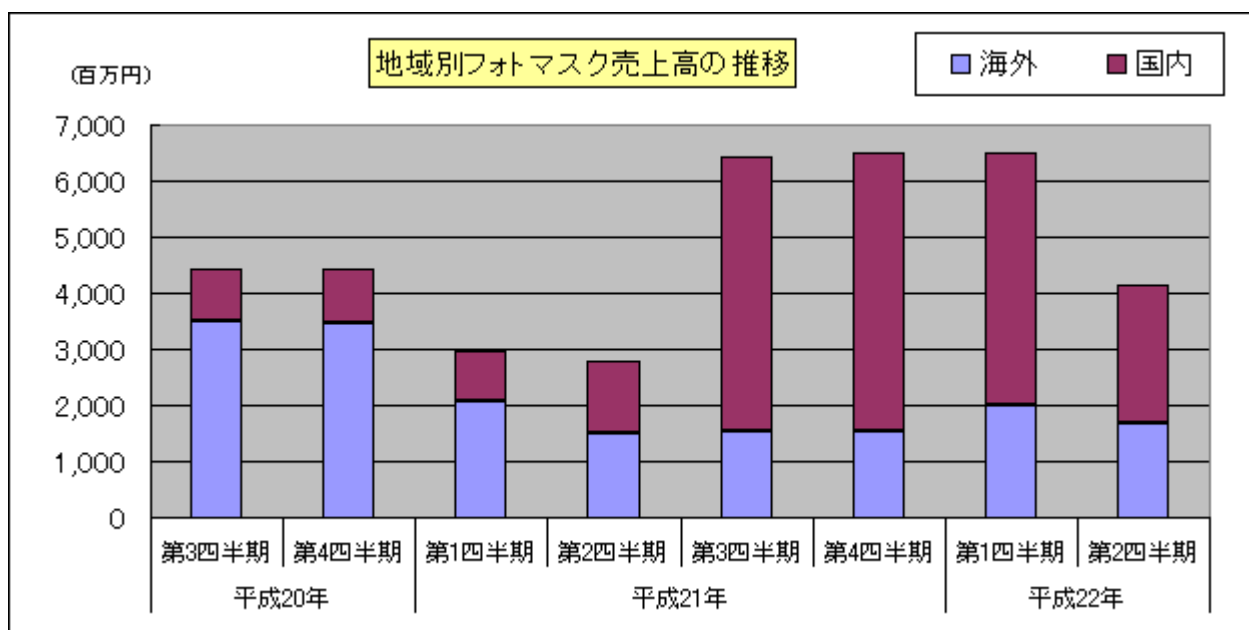
(参考) 製品別フォトマスク売上高の推移

(単位：百万円)

	平成20年		平成21年				平成22年	
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
TFT	2,577	2,310	1,549	1,032	3,062	2,789	3,374	2,346
その他	1,859	2,124	1,404	1,759	3,383	3,702	3,113	1,780
計	4,437	4,434	2,953	2,792	6,445	6,491	6,488	4,126

地域別には、国内向け売上高については、滋賀工場の次世代フォトマスクが第2四半期において需要が大幅に減少したものの、第1四半期において堅調に推移したことにより、69億56百万円と前年同期と比べ大幅に増加いたしました。海外向け売上高につきましては、36億58百万円となり、前年同期とほぼ同水準となりました。

(参考)



(参考) 地域別フォトマスク売上高の推移

(単位：百万円)

	平成20年		平成21年				平成22年	
	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
海外	3,511	3,482	2,079	1,515	1,521	1,550	1,990	1,667
国内	926	952	873	1,276	4,923	4,941	4,497	2,459
計	4,437	4,434	2,953	2,792	6,445	6,491	6,488	4,126

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1)資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ42億79百万円減少し279億47百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が減少したことや機械装置及び運搬具の減価償却が進んだことによります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ47億42百万円減少し171億68百万円となりました。これは主に、長期借入金や支払手形及び買掛金が減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億63百万円増加し107億78百万円となりました。これは主に、利益剰余金及び為替換算調整勘定の増加によるものであります。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は前連結会計年度末に比べ5億79百万円増加し、29億93百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果増加した資金は、44億75百万円となりました。これは主に、減価償却費が27億44百万円、売上債権の減少額が13億31百万円となったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果減少した資金は、8億13百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出8億11百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果減少した資金は、31億30百万円となりました。これは主に、短期借入金純減額5億円や長期借入金の返済による支出24億55百万円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年9月期の連結業績予想(通期)につきましては、本日別途公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した見通しであり、実際の業績は、今後起こりうる様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第2四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2) 固定資産の減価償却算定の方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,993,094	2,413,547
受取手形及び売掛金	6,782,480	8,046,444
商品及び製品	17,299	41,138
仕掛品	120,933	470,657
原材料及び貯蔵品	1,207,617	1,365,386
その他	529,277	1,039,778
貸倒引当金	△12,571	△21,834
流動資産合計	11,638,132	13,355,118
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,722,582	4,921,723
機械装置及び運搬具(純額)	9,356,384	11,676,573
土地	1,607,750	1,607,750
その他(純額)	114,218	131,676
有形固定資産合計	15,800,937	18,337,724
無形固定資産	254,784	301,816
投資その他の資産		
その他	278,347	255,688
貸倒引当金	△25,119	△23,843
投資その他の資産合計	253,227	231,845
固定資産合計	16,308,950	18,871,385
資産合計	27,947,082	32,226,503
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,995,444	4,958,142
短期借入金	—	500,000
1年内返済予定の長期借入金	4,337,734	4,585,413
未払法人税等	19,000	5,000
役員賞与引当金	35,000	—
その他	905,755	1,849,087
流動負債合計	9,292,934	11,897,644
固定負債		
長期借入金	7,806,639	9,963,947
その他	68,649	49,464
固定負債合計	7,875,288	10,013,412
負債合計	17,168,223	21,911,056

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,109,722	4,109,722
資本剰余金	4,335,413	4,335,413
利益剰余金	1,305,638	989,988
自己株式	△48,338	△48,338
株主資本合計	9,702,436	9,386,786
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	32,125	18,581
為替換算調整勘定	△420,799	△536,685
評価・換算差額等合計	△388,674	△518,103
少数株主持分	1,465,096	1,446,764
純資産合計	10,778,858	10,315,447
負債純資産合計	27,947,082	32,226,503

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年3月31日)
売上高	5,745,213	10,615,104
売上原価	6,104,667	9,468,758
売上総利益又は売上総損失(△)	△359,454	1,146,345
販売費及び一般管理費	1,214,752	887,203
営業利益又は営業損失(△)	△1,574,206	259,142
営業外収益		
受取手数料	15,454	15,454
不動産賃貸料	8,946	7,439
為替差益	—	19,587
その他	7,109	10,350
営業外収益合計	31,509	52,832
営業外費用		
支払利息	72,882	79,923
為替差損	49,562	—
その他	30,687	31,309
営業外費用合計	153,132	111,233
経常利益又は経常損失(△)	△1,695,829	200,741
特別利益		
補助金収入	—	100,000
特別利益合計	—	100,000
特別損失		
たな卸資産評価損	36,029	—
有形固定資産除却損	89,047	127
貸倒引当金繰入額	20,999	—
投資有価証券評価損	31,977	—
災害による損失	—	21,169
特別損失合計	178,054	21,296
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,873,883	279,444
法人税、住民税及び事業税	30,986	24,396
法人税等調整額	26,098	—
法人税等合計	57,084	24,396
少数株主損失(△)	△137,375	△60,601
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,793,592	315,649

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,873,883	279,444
減価償却費	1,827,134	2,744,640
貸倒引当金の増減額(△は減少)	27,932	△9,312
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△28,000	35,000
受取利息及び受取配当金	△2,085	△1,224
支払利息	72,882	79,923
有形固定資産除却損	89,047	127
投資有価証券評価損益(△は益)	31,977	—
売上債権の増減額(△は増加)	△2,117	1,331,231
たな卸資産の増減額(△は増加)	△61,441	551,513
仕入債務の増減額(△は減少)	△398,261	△1,000,203
未払金の増減額(△は減少)	△193,883	△204,421
未払費用の増減額(△は減少)	△131,540	87,408
未収消費税等の増減額(△は増加)	—	522,243
その他	△428,567	△18,517
小計	△1,070,809	4,397,854
利息及び配当金の受取額	2,084	1,224
利息の支払額	△73,092	△78,271
法人税等の支払額	△286,831	△7,817
法人税等の還付額	—	162,688
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,428,648	4,475,679
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,869,037	△811,747
無形固定資産の取得による支出	△67,684	△1,150
貸付金の回収による収入	485	385
その他	14,531	△658
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,921,705	△813,170
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	748,000	△500,000
長期借入れによる収入	5,300,000	—
長期借入金の返済による支出	△887,092	△2,455,142
設備関係割賦債務の返済による支出	△171,943	△175,694
自己株式の取得による支出	△565	—
自己株式の売却による収入	95	—
配当金の支払額	△90,733	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,897,760	△3,130,836
現金及び現金同等物に係る換算差額	△84,595	47,873
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	462,810	579,546
現金及び現金同等物の期首残高	2,167,912	2,413,547
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,630,722	2,993,094

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成20年10月1日至平成21年3月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年3月31日)

当社及び連結子会社の事業は、大型フォトマスクの設計・製造・販売を主とする単一事業であります。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

b. 所在別セグメント情報

前第2四半期連結累計期間(自平成20年10月1日至平成21年3月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	4,595,063	1,150,150	5,745,213	—	5,745,213
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	545,857	305,257	851,114	(851,114)	—
計	5,140,920	1,455,407	6,596,328	(851,114)	5,745,213
営業損失	1,268,361	275,675	1,544,036	(30,170)	1,574,206

(注) 1 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

(1) 国又は地域の区分の方法……地理的近接度によっております。

(2) 各区分に属する主な国又は地域……アジア：台湾、韓国

2 会計処理方法の変更

第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会平成18年7月5日企業会計基準第9号)の適用にともない、従来の方法によった場合に比べて、営業損失が日本で187,974千円増加しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年3月31日)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	8,755,188	1,859,915	10,615,104	—	10,615,104
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,029,133	16,740	1,045,873	(1,045,873)	—
計	9,784,321	1,876,655	11,660,977	(1,045,873)	10,615,104
営業利益又は 営業損失(△)	490,128	△117,876	372,251	(113,109)	259,142

(注) 国又は地域の区分の方法及び各区分に属する主な国又は地域

1 国又は地域の区分の方法……地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域……アジア：台湾、韓国

c. 海外売上高

前第2四半期連結累計期間(自平成20年10月1日至平成21年3月31日)

	アジア	その他	計
I 海外売上高(千円)	1,210,977	—	1,210,977
II 連結売上高(千円)	5,745,213		
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	21.1	—	21.1

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
アジア……台湾、韓国、中国、シンガポール

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成21年10月1日至平成22年3月31日)

	アジア	その他	計
I 海外売上高(千円)	3,658,498	—	3,658,498
II 連結売上高(千円)	10,615,104		
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	34.5	—	34.5

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域
アジア……台湾、韓国、中国、シンガポール

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

4 第1四半期連結会計期間より、間接輸出高を含めて表示しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。